

# 新春対談 2019



湖南市長  
谷畑英吾

湖南市議会議長  
松原栄樹

司会進行  
真山達志  
(同志社大学教授)

今年、湖南市が誕生して15周年を迎えます。そこで、湖南市政策形成コンテンツにも関わっていただいた同志社大学の真山達志教授(以下、敬称略)に司会進行をお願いし、谷畑市長と松原議長の3人で対談を行いました。

## 市政誕生15周年を迎えるにあたって

(真山) 明けましておめでとうございます。今年、湖南市が誕生して15周年を迎えますが、振り返ってみていかがでしょうか。

(市長) はじめは甲西町と石部町が一つになるために汗をかいてきた時期があり、財政が厳しい時期もありましたので、そこから脱却するために、市民の皆さんにはいろいろのご協力いただきました。また、地域自治を大事にし、環境やエネルギーや教育や福祉など、地域の中でそれぞれ考えていただくまちづくりが進んできたと思います。産業活

性化や交通安全を含め、インフラの整備も一定進んできたのではないかと思います。

(議長) 新しくできた各まちづくり協議会や区・自治会それぞれが、役割を果たしながら進めてきた15年であったと思います。

(真山) 今年の抱負をお聞かせください。

(市長) 昨年は自然災害が多かったです。防災面でしっかりした基盤を作っていく必要があると感じています。これまで各避難所となる学校施設は耐震化を行ってきましたが、司令塔となる庁舎についても、耐震化を進めていく必要があります。また、これからは地域防災や地域福祉がとて大切ですので、同時に地域活動も活性化させながら、盛り上げていきたいと思っています。

(議長) 今年はもっとみんながまちづくりを考えていく年にしたいですね。特に、まちづくり協議会を中心

に、さまざまな課題を共有しながら、このまちを作っていく必要があると思います。また、災害時の議会の対応についても、ずっと模索してきました。議会は常に市民の声を吸い上げ、アドバイスする役割を担うものだと思っています。災害が発生したときは、地域住民のご近所とのつながりが最も重要だと思えますので、そういった意識を議会の中で共有していきたいと思っています。

## 湖南市の住民自治

(真山) 防災に関しては地域住民の自治、地域の力が重要だというお話でしたが、湖南市の住民自治は、現在どのような状況だと考えておられますか。

(市長) 地域には、リタイアした人が徐々に増えてきています。これまで地域の自治は、旧の集落のかたがたが担ってこられました。が、働きに行っていた人が地域に戻ることに、地



域の中での合意形成や共通認識を醸成していくことが大事になります。市としては、地域福祉や地域で学校を包み込む取組、地域防災など、地域でひとつになるための方向性を示しながら、自助・共助・互助・公助といった住み分けをうまく使えるような、成熟した地域社会になればいいと思います。

(議長) 今までの区・自治会とは違う役割を担っているまちづくり協議会について、今一度見直す必要があるのではないのでしょうか。区・自治会は自治体の基礎組織ですから、市政に関す

る役割を担っていますが、まちづくり協議会の役割を見直していくことで、地域全体の活性化につながっていくと思います。

## 国の政策について

(真山) 現在、国は幼児教育・保育無償化や外国人受け入れ等、新しい政策を打ち出しています。湖南市としてはどのように対応しているとお考えですか。

(市長) 幼児教育・保育無償化については、事務や財源を負担する自治体に相談なく、国が一方的に決めたため、全国市長会は自治権の侵害に強く反発しました。しかし、国の理解が進んだため、詳細を詰めるながら対応していきます。外国人の受け入れについては、湖南市では早くから多文化共生に取り組み、外国籍の人を受け入れる素地を持っていますが、本来は国全体としてきちんと責任を持ってもらう必要があると思います。



**(真山)** 今、市長から国の政策展開の中で、湖南市の取組についてのお話がありました。また、議会の立場からどのような対応が必要とお考えでしょうか。

**(議長)** このまちは20分以内で全ての地域に行ける恵まれた地形をしています。そのため、まち自体にある種の危機感がないのではないかと思います。これから少子高齢化社会に対して、生きがいづくりや農業についての施策を展開しては、他の市町のように目立った特産物が少ないため、協定を結んだ市町のアンテナ

ショップのようなもので地域を活性化することも大切だと思っています。55000人を切っていた人口も戻ってきてきました。人口が増えることは担い手が増えることです。ですので、これからは住みやすいまちづくりができればと思います。

**子どもたち  
若者たちのために**

**(真山)** 人口を増やすには、少子化対策や子育て支援、若者対策が重要かと思いますが、若者向けには湖南市としてどういう取組をされていますか。

**(市長)** 日本版ネウボラとして、子育て応援サポートセンターを立ちあげ、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を行っています。また、発達支援システムにより、専門機関がお子さん一人ひとりに対応して必要な支援をさせていただいています。さらに、子どもの医療費などの手厚い支援の

拡充や、在宅保育に対するサービスの充実、公立園の民営化を進めながら、子育て支援サービスの量を増やしていきたいと思っています。また、子どもたちには地域でどんどん活躍してもらい、自分たちも地域の一員なんだと認識してもらい、自分たちがまちの施策に関与しているということを実感してもらおう。そうすることで、自分たちが声を挙げて参画すればまちは変わっていくと感じてもらえるのではないかと思います。そういう意味では、若手の人からの政策提案制度や新しい起業を伴った移住といった施策もどんどん行っていくつもりです。

**(真山)** 政策提案に関しては、昨年初めて「こなん政策アカデミー」を行いました。が、中学生による政策提案という企画がありました。あれをご覧になって市長は

どう思われましたか。

**(市長)** あれは素晴らしい提案だったと思います。大人の頭では絶対考えつかないようなことを中学生は考えてくれると思いますし、中学生がまちづくりに関わったという経験を持つていけば、おそらく将来もこの地域にずっと住み続けたいと思ってくれるはずで、まさに未来的な政策手法だと感じました。

**(真山)** 若い人や中学生などからいろんな政策提案を受け、それを具体化、実現していくということですが、



議会としてはどのようなご覧になっておられますか。

**(議長)** このまちでは、地域と学校のコミュニティの中で子どもたちを見守っていますので、いい環境で子どもたちが育ってくれていると思います。子どもたちも議会に興味を持ってきていますし、このまちの未来を担う若者が政策を提案し、実現していくことは非常に良いことだと思います。そのような子どもたちがこのまちに残ってくれることを願っています。

**(市長)** 政策立案の中では、課題を見つけて出すのが一番大変だと思います。問題が転がっていても課題だと思わなかったら見過ごしてしまいますから、課題に気付いたら自分がしなければならぬという責任感を持つこと。「自覚者が責任者」ということを自覚する必要があります。と思います。



とっては地域に対する一つのプライドになりますね。

**(議長)** 地域に愛着を持つことは、Uターンにもつながりますし、若い人が帰ってきてくれると、まちがより良くなると思います。

**(市長)** そのための玄関口として、甲西駅と三雲駅を改修しましたが、石部駅のバリアフリー化にも取り組んでいかなければなりません。それから、変なアプロー

チと思う人もいるかもしれませんが、若い人に届くようアニメとコラボレーションしたり、SNSを駆使したりと、今までは少し違う切り口で情報の発信を行っています。

**どんな1年に**

**(真山)** 最後に、平成が終わって新しい元号の始まる2019年はどうのような1年にしていくと思われま

**(市長)** 平常心で、奇をてらうのではなくスタンダードにひとつずつ政策を積み重ねていくことが大事だと思います。特に、国の政策の振れ幅がかなり大きいので、湖南市としてのアイデンティティを失わずに、市

民の皆さんに満足していただけのようなまちづくりを進めていければと思います。住民サービスを向上させるために、自力だけでなく、IOTやAIなどいろんなものを総動員しながら、みんながWIN-WINで幸せになろうよという地域につながるような土台作りをしていきたいです。

**(議長)** 議会としましては、市民にとって良いことが悪いことを考えながら、意見していきたいと思っています。また、一度立ち止まって見直さないと、いけない部分もあると思うので、新しい施策とのバランスを見ていきたいですね。なにはともあれ市民が明るくいられるまちなることを願っています。

**(真山)** 元号も変わって新しい時代に入りますので、湖南市としても芯は変わらないものの、一皮むけた新しい姿になるということですね。今年も一年ご活躍をお祈りいたします。